

たかし



杉並区立高井戸第四小学校

将来に明るい希望と勇気を持ち、
自分も人もよりよく生きることを目指す教育活動の積み重ねを目指して

校長 本橋 忠旗

4月を迎え、桜の花も満開を迎え、令和8年度が新たにスタートしました。今年度は、新1年生62名を迎え、全校児童405名、全14学級と特別支援教室（たかし教室）言語通級指導教室（ことばの教室）でのスタートとなります。1・2・3・6年生は2学級、4・5年生は3学級となります。これまで保護者の皆様に支えられ、地域の皆様に愛されてきた歩みを創立87周年となる今年度も継続していきます。

特に教育活動では、教科指導の充実を図るために、高学年における教科担任や低中学年における交換授業を実施し、指導の効率化や学年経営の充実を図ること、教員と児童相互が共通の目標をもって学校生活を送ることができるようするために、定期的に学年会、学級会を実施し、児童の意見を反映させながら学年・学級経営を進めたり、多様な他者との協働的な活動を行っていったりする場面をつくること、学習を通じて情報活用能力の育成を重視し、校内研究活動を中心に探究的な学習の進め方の工夫改善を図ること、いじめの未然防止を目的とした委員会活動等の充実を図り、児童のいじめに対する意識の向上を図ることを重点的に取り組んでいきます。

ところで、以前、意味深い雑誌の記事を見付けました。その記事は作家・演出家である鴻上尚史氏の「もしも、わが子にこの時代に大学に行く意味を問われたら」という問いに対するもので、鴻上氏は「僕の指示どおりに演技をした俳優は、その舞台の評判が悪かったら、僕を恨むしかありません。でも、自分でその演技を『選んだ』と思えると、どんな結果でも納得ができる。」と課題を提起した後、親のあるべき姿について「『正解を知っている親』をやめること」さらに、子供が大学に行く意味について「ちゃんと途方に暮れること（自由な時間の中で、自分で判断して行動するようになること）」と示していました。

この記事から私たち大人が考えることは、「子供の成長過程において、子供自身が自分の行動を自分で考えて、決める環境をつくったり、子供が自分で気付くように導いたりすること」を提示しているのではないかと思います。

先の探究的な学習活動では、「課題の設定-情報収集-整理分析-表現・まとめ」という学習サイクルをたどります。そこには、子供による選択と自己決定の要素が重要となります。教員は、教える存在から、考えさせ、気付かせる存在となります。こうした学習活動を通じて、自他の考えを生かしながら、よりよい考えを見付け出そうとする態度や協働意識、社会参画意識、社会の一員としてよりよく関わろうとする態度の育成を今年も図っていきたいと思います。

入学式・始業式では、「いい学校、いい学年、いい学校は誰かが作ってくれるものではなく、自分たちでつくっていくもの」という話をしました。小学校期は、人格形成の基礎となる時期です。その時期に、縁あって出会った私たちが同じ方向を向き、共に手を携えていくパートナーとして、児童のよき道標となって児童の協働的な学びを形づくっていきたいと思います。今年度も、皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。